

環境活動レポート

2009年度

2009年 5月 1日～2010年 4月30日



日本化学機械製造株式会社

発行 2010年 6月 30日 (環境月間)



環境方針

私たち一人ひとは、社是に徹し当社の基本理念である
美しい地球 生き活きとした社会のために
経営方針の下、ここに環境方針を定め、行動することを宣言します。

社是 『誠心誠意』 『感謝の奉仕』

基本理念

For the beauty of the earth
For a dynamic and attractive society

美しい地球 生き活きとした社会
それらが調和し持続し発展するために
役立つ 技術 と 人材 を提供します

環境方針

全ての人々が健康に生き活きと生きる事ができる社会は、豊かな自然と健全な環境の上に成り立っています。
地球環境が保全され、限り有る資源と多様性に富む生物を将来に引き継いでいける持続可能な社会を構築するために、環境について考え、行動することは、21世紀を生きる人類のそして経済社会を営む企業の責務であると強く認識します。

私たち日本化学機械製造株式会社は、事業活動における環境負荷の低減を図るために、次の行動指針に定める環境保全活動を推進します。

〈環境保全への行動指針〉

1. 以下について、環境目標・活動計画を定めて、継続的な改善に努めます。
 - (1) 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量削減
 - (2) 節水推進
 - (3) 廃棄物排出抑制、リサイクルと適正処理の推進
 - (4) 環境に有害な化学物質管理の推進
 - (5) 製品における環境配慮の促進
2. 環境関連法規や当社が約束したことを順守します。
3. 環境への取り組みを活動レポートとして公表します。

制定日 2007年 12月 10日
改定日 2009年 5月 1日
日本化学機械製造株式会社
代表取締役社長

高橋正一





組織の概要

- (1) 事業者名及び代表者名
 日本化学機械製造株式会社 全社
 代表取締役社長 高橋 正一
- (2) 全組織所在地
 本社・工場 : 大阪府大阪市淀川区加島4-6-23
 南山田工場 : 滋賀県湖南市岩根字南山田1662番5
 滋賀工場 : 滋賀県湖南市大池町7番地1
 東京営業所 : 東京都中央区京橋1丁目17番4号(杉江ビル7F)
- (3) 活動対象組織と活動期間
 本社・工場 : 2009年 5月 ~ 2010年 4月【エコアクション21 2008年8月認証・登録済】
 南山田工場 : 2010年 1月 ~ 2010年 4月【2010年8月 拡大認証審査受審予定】
 滋賀工場 : 2010年 1月 ~ 2010年 4月【2010年8月 拡大認証審査受審予定】
 東京営業所 : 2010年 2月 ~ 2010年 4月【2010年8月 拡大認証審査受審予定】
 ※2010年 8月 全組織対象に、エコアクション21 認証・登録受審予定
- (4) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
 全社環境管理責任者 取締役製造部長 宇山 正彦
 全社環境事務局 営業部 中田 仁
 開発技術室 中嶋 幹恵
 技術部 海瀬 卓也

各サイト環境管理責任者	本社・工場	滋賀工場	南山田工場	東京営業所
環境管理責任者	取締役製造部長 宇山 正彦		工場統括 浅野 宣男	取締役営業所長 香山 伊平
連絡先 TEL	06-6308-3881	0748-75-2131	0748-72-3007	03-3567-8101

- (5) 事業の内容
 化学機械・化学装置・燃焼装置・超低温液化ガス機器の設計、製作、販売
- (6) 適用ガイドライン
 エコアクション21 ガイドライン 2009年版
- (7) 事業の規模
 1) 創業 1939 年
 2) 資本金 275 百万円
 3) 売上高の推移

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度 予想値
64.5億円	61.3億円	88.9億円	82.7億円

- (8) 各サイトの概要

サイト	本社・工場	南山田工場	滋賀工場 ^{※1}	東京営業所 ^{※2}
従業員数	161名	25名	0名	6名
敷地面積	21,685m ²	3,727m ²	27,229m ²	賃貸事務所
工場床面積	6,578m ²	1,901m ²	5,024m ²	
事務所等床面積	3,025m ²	214m ²	0m ²	

※1 滋賀工場は、常勤者は不在で、スポット的に当社開発製品等の試験や南山田工場の資材倉庫として使用しています。

※2 東京営業所は、賃貸事務所です。

- (9) 事業概要

当社は、アルコール蒸留装置の設計・製作を創業の原点として70年以上に亘り操業を続けており、現在では、アルコール蒸留のみならず化学・食品・医薬工業界様向けに、広く化学機械や化学プラントをご提供しています。最近では、70年の歴史によって培った設計・製造技術と豊富な経験を駆使して、バイオエタノール製造プラントや太陽光発電に供される原料製造プラントの建設などにも携わりました。

また、当社独自の蒸留技術を活かした廃溶剤回収プラント、環境負荷物質の回収装置、脱臭設備などもご下命頂いており、これらの製品を通じて環境改善に貢献しております。

1. 主な環境負荷の実績

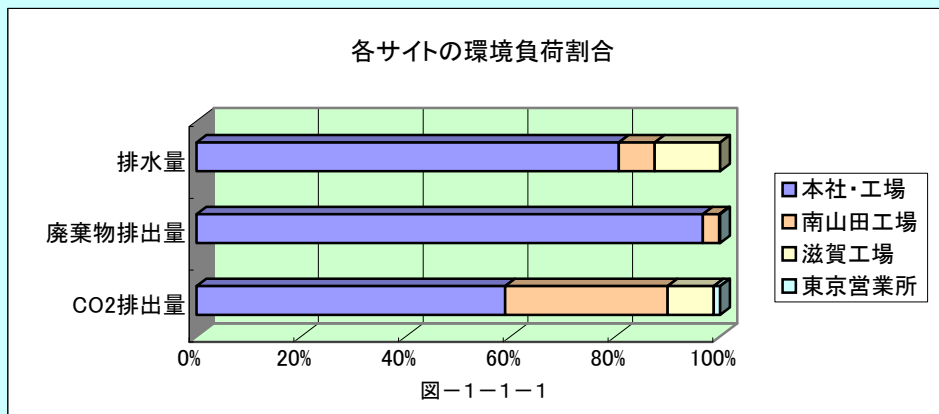
1-1. 各サイト別環境負荷の実績

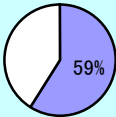
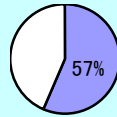

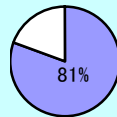
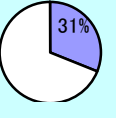
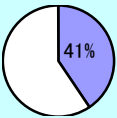
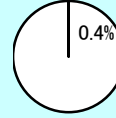
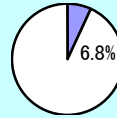

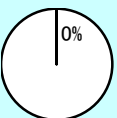
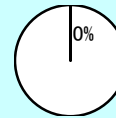
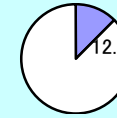
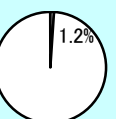

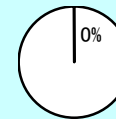
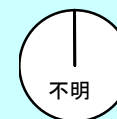
当社の各サイトにおける環境負荷の実績を【表-1-1】に、また、当社の総排出量に対する各サイトの負荷割合を【図-1-1-1】～【図-1-1-5】に示します。
 当社が排出する二酸化炭素量(以下、CO₂)の約60%、総排水量の約80%、一般廃棄物の約60%、産業廃棄物の約100%が本社・工場サイトからのものです。

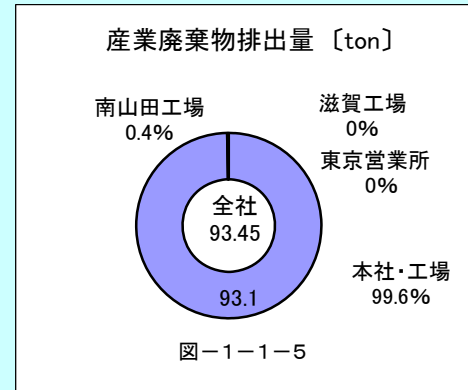
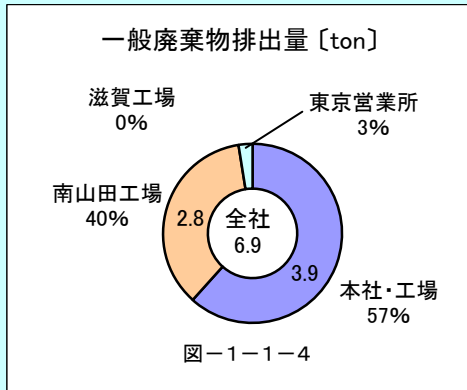
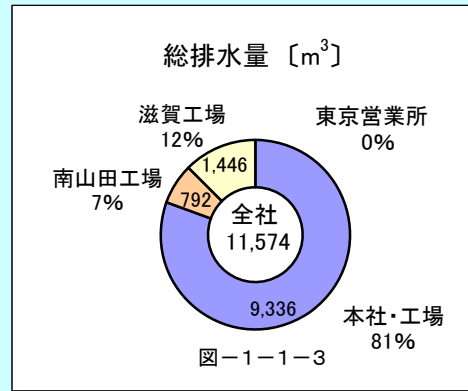
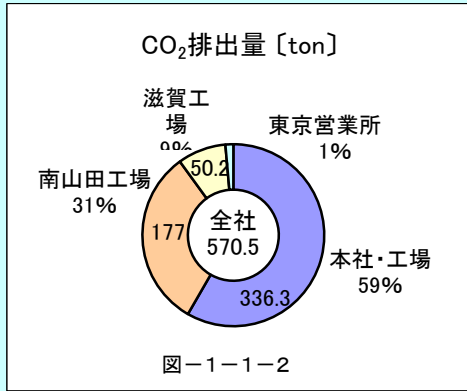
【表-1-1】各サイトにおける環境負荷の実績 2009年 5月～2010年 4月

環境負荷項目	単位	本社・工場	南山田工場	滋賀工場 ^{※1}	東京営業所 ^{※2}	全社
CO ₂ 排出量	ton/年	336.3	177.0	50.2	7	570.5
一般廃棄物排出量 ^{※3}	ton/年	3.9	2.8	0	0.2	6.9
産業廃棄物排出量 ^{※3}	ton/年	93.1	0.35	0	0	93.5
総排水量	m ³ /年	9,336	792	1,446	-	11,574

- ※1 滋賀工場では、常勤者も不在のため廃棄物は発生しません。
- ※2 東京営業所では、水道料金が共益費に含まれているため使用量は把握できません。
- ※3 本社・工場以外のサイトでは、活動期間中の廃棄物排出量を年換算しています。
 なお、廃棄物以外の排出量は、各サイトとも1年間の実績値です。



環境負荷 サイト	CO ₂	一般廃棄物	産業廃棄物	水使用量
本社・工場	 59%	 57%	 99.6%	 81%
南山田工場	 31%	 41%	 0.4%	 6.8%
滋賀工場	 8.3%	 0%	 0%	 12.5%
東京営業所	 1.2%	 2%	 0%	 不明



1-2. 各環境負荷の内訳

(1) CO₂排出量

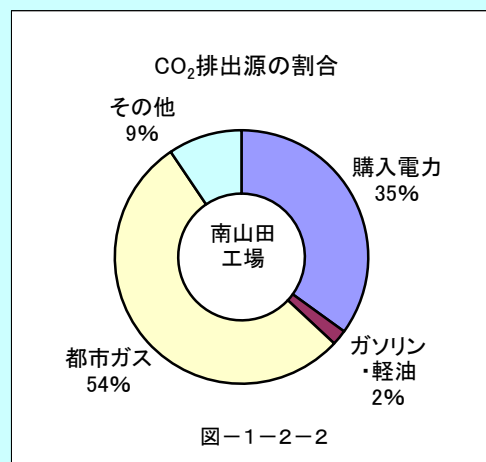
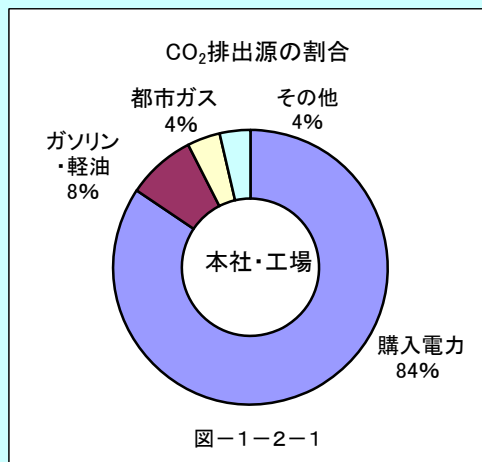
各サイトにおけるCO₂の主な排出源を【表-1-2】に示します。
 また、当社の二酸化炭素総排出量の約60%を占める本社・工場と約30%を占める南山田工場における排出源の割合を【図-1-2-1】及び【図-1-2-2】に示します。
 本社・工場では、83%が購入電力、9%が自動車燃料であるガソリン・軽油による排出です。
 南山田工場では、超低温液化ガス容器の製作過程で都市ガスを熱源とする乾燥炉を使用しているため、都市ガスによる排出が54%と多くなっています。

【表-1-2】

[単位:ton/年]

CO ₂ 排出源	本社・工場	南山田工場	滋賀工場	東京営業所	全社
購入電力 ^{※1}	283.8	62.0	50.2	7.0	403.0
ガソリン・軽油	27.2	3.4	0	0	30.6
都市ガス	12.7	95.0	0	0	107.7
その他	12.6	16.6	0.0	0.0	29.2
合計	336.3	177.0	50.2	7.0	570.5

※1 CO₂排出係数: 各サイトとも 0.000378 t-CO₂/kwh





(2) 総排水量 (ton/年)

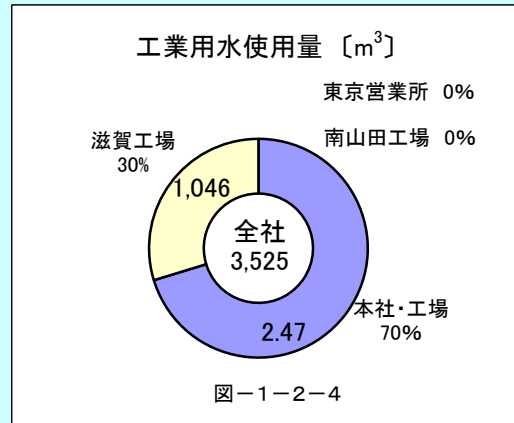
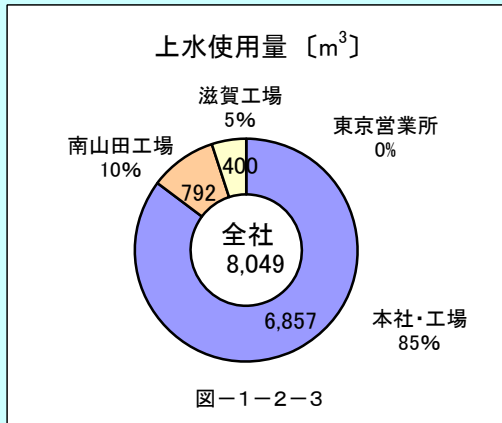
各サイトにおける排水区分ごとの実績を、【表-1-3】に示します。

また、総排水量に対する各サイトの排水割合を、【図-1-2-3】及び【図-1-2-4】に示します。
なお、当社の場合、使用量を排水量としています。

【表-1-3】

〔単位:m³/年〕

排水の区分	本社・工場	南山田工場	滋賀工場	東京営業所	全社
上水	6,857	792	400	—	8,049
工業用水	2,479	0	1,046	0	3,525
合計	9,336	792	1,446	0	11,574



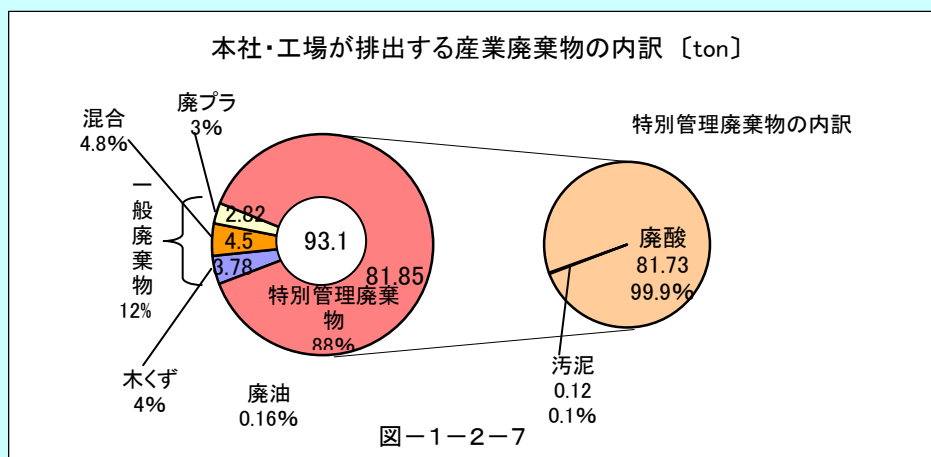
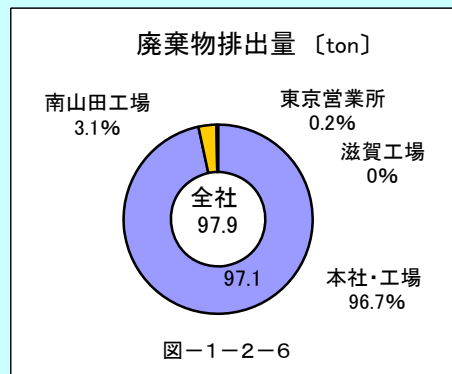
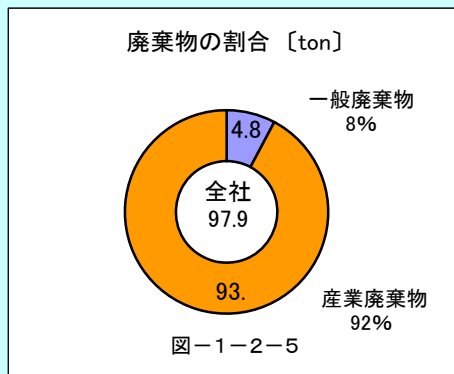
(3) 廃棄物排出量 (ton/年)

全社における一般廃棄物と産業廃棄物の排出割合を【図-1-2-5】に、各サイトごとの一般廃棄物と産業廃棄物の合計排出量の実績を【図-1-2-6】に示します。

廃棄物総排出量の約97%は、本社・工場から排出されています。

また、廃棄物総排出量の92%は産業廃棄物で、全て本社・工場から排出されており、その内訳を【図-1-2-7】に示します。

特別管理産業廃棄物の99.9%を占める廃酸は、本社・工場で作成するステンレス製機器の洗浄工程より排出される洗浄廃液で、その99.8%は水です。

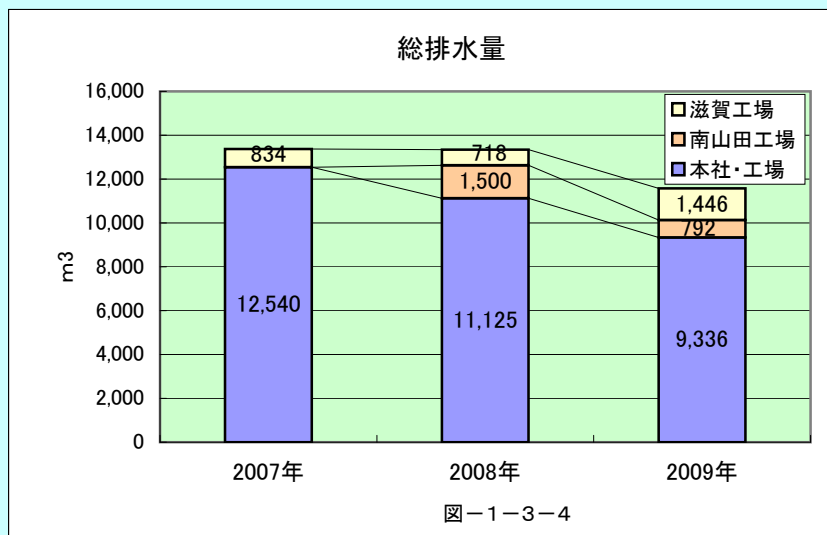
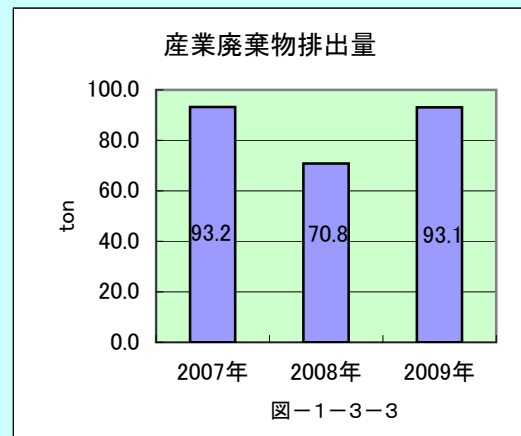
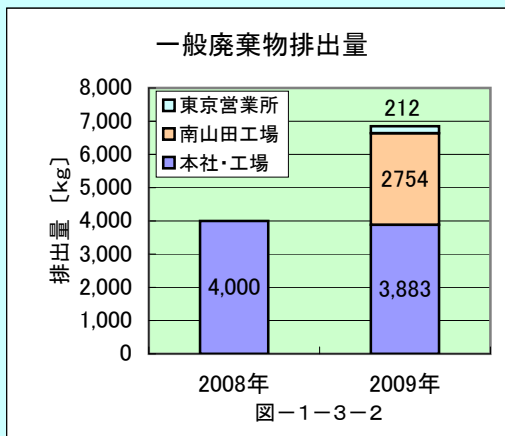
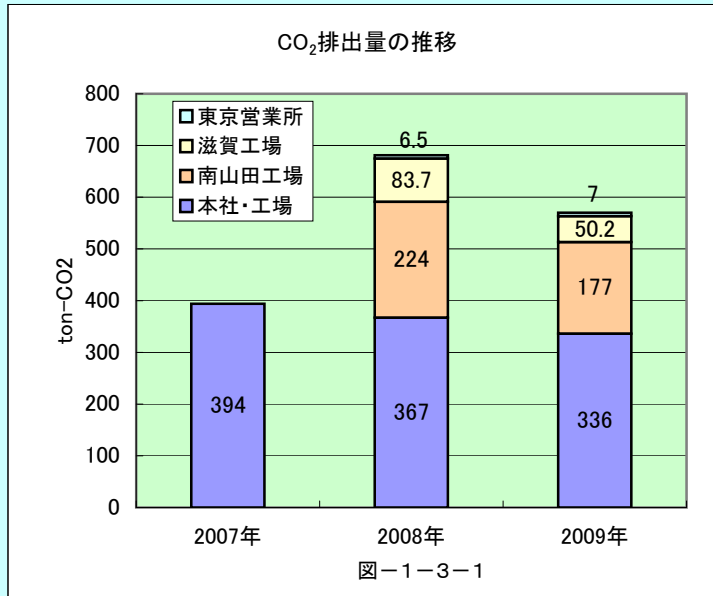




1-3. 年度ごとの推移

主な環境負荷の年度ごとの実績の推移を、【図-1-3-1】～【図-1-3-4】に示します。本社・工場を除く各サイトでは、活動開始時期の関係上、2007年度以前のデータについては把握できていないものがあります。

なお、産業廃棄物は本社・工場以外からは殆ど排出されません。





2. 環境目標及びその実績

2-1. 本社・工場

当社では、主な環境負荷の大半を排出する本社・工場を、環境側面における最重要サイトと位置付け、2008年より環境活動に取り組んでいます。

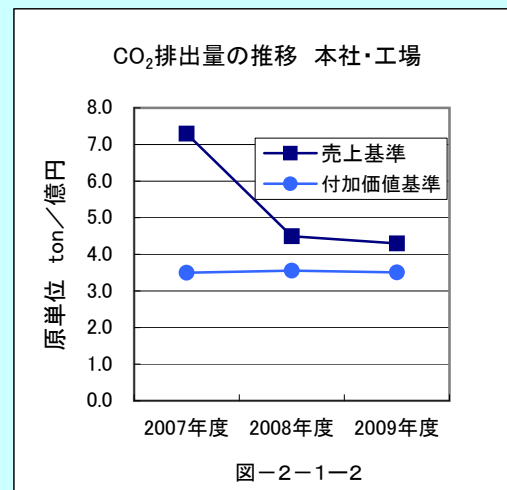
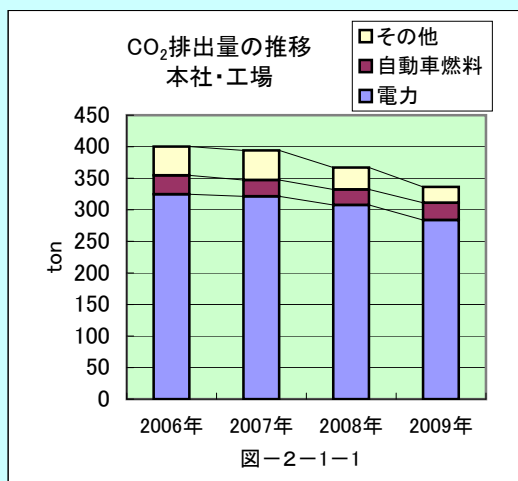
本社・工場では、【表-2-1】に掲げる項目について環境目標を設定し、活動を展開しています。同表に、2009年度の活動実績を、2006年度または2007年度を基準値とする項目については、年度ごとの推移を【図-2-1-1】～【図-2-1-5】に示します。

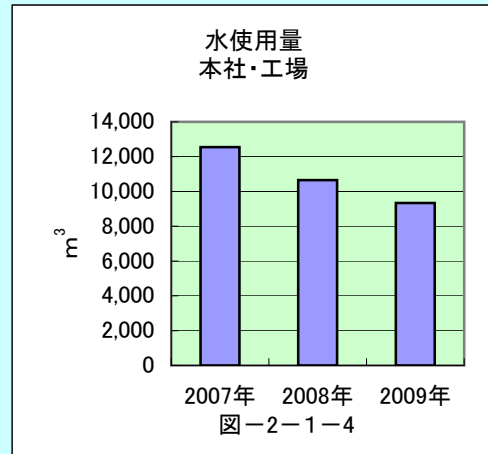
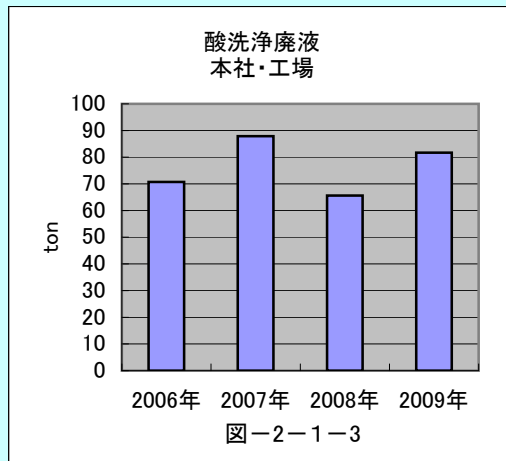
【表-2-1】 本社工場の環境目標及びその実績

項目	年度	(基準年度) 基準値	2009年 (2009年5月～2010年4月)		2010年	2011年
			目標	実績	目標	目標
CO ₂ 削減 ^{※1} [電力]	ton-CO ₂	(2006年) 325	△4% 311.8	△12.6% 283.9	△13.5% 281.0	△14.5% 277.0
CO ₂ 削減 [自動車燃料]	ton-CO ₂	(2006年) 29.9	△4% 28.7	△9% 27.3	△5% 28.4	△6% 28.1
一般廃棄物削減	kg	(2008年) 4,000	△2% 3,920	△2.9% 3,886	△3% 3,880	△4% 3,840
コピー紙使用量削減	kg	(2008年) 5,257	△2% 5,152	△4.9% 4,997	△3% 5,099	△4% 5,047
産業廃棄物削減 [廃酸(酸洗浄廃液)]	ton	(2006年) 70.7	△3% 68.5	+5.6% 81.7	△4% 67.8	△5% 67.1
[廃プラスチック]	kg	(2008年) 968	△2% 949	△20% 774	△22% 755	△24% 736
節水	m ³	(2007年) 12,540	△3% 12,169	△25.6% 9,336	△26% 9,243	△27% 8,963
化学物質管理の徹底	以下の取組みを実施 ・保管容器・場所等の識別管理 ・汚染防止のための訓練 ・リスクアセスメントの全部門展開 ・化学物質管理パトロール 4回/年 ・排水等の測定監視			継続	継続	
化学物質使用量の削減 ^{※2}	L	(2009年) 240	2010年度より活動項目に設定		△6.7% 233	△13.3% 227
製品における環境配慮の促進	設計段階における環境配慮項目を点数化し、評価する仕組みの運用を開始した。			継続	継続	

※1 本社・工場では、総排出量の84%が電力、8%が自動車燃料(ガソリン+軽油)につき、これらについて削減目標を設定しています。

※2 当社には、化学物質を原料とする製品はありません。





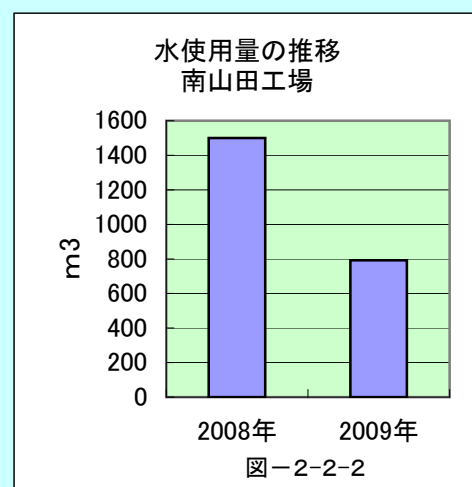
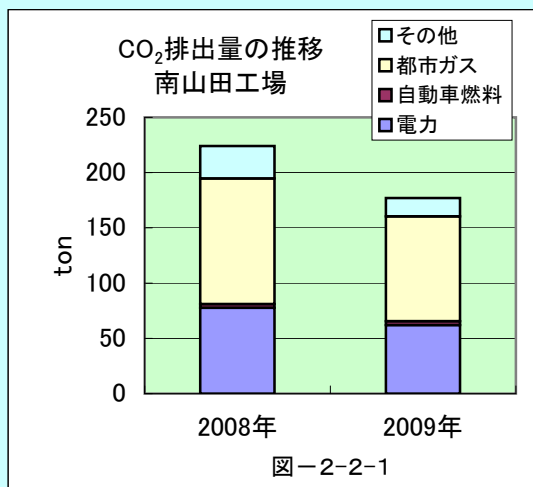
2-2. 南山田工場

南山田工場では、【表-2-2】に掲げる項目について環境目標を設定し、活動を展開しています。CO₂排出源は、現状では都市ガスが最大ですが、環境目標設定項目は本社・工場に合わせています。年度ごとの推移を【図-2-2-1】～【図-2-2-2】に示します。

【表-2-2】 南山田工場の環境目標及びその実績

項目	年度	(基準年度) 基準値	2009年 (2009年5月～2010年4月)		2010年	2011年
			目標	実績	目標	目標
CO ₂ 削減 [電力]	ton-CO ₂	(2008年) 77.7	△10%	△20%	△3%	△4%
CO ₂ 削減 [自動車燃料]	ton-CO ₂	(2008年) 6.31	△15%	△25%	△3%	△5%
一般廃棄物削減 ^{※1}	kg	(2009年) 2,756	—	1,148	△3%	△4%
コピー紙使用量削減	kg	(2008年) 301	△2%	△23%	△3%	△4%
節水	m ³	(2008年) 1,500	△10%	△48%	△3%	△4%

※1 2009年の実績は、2009年12月～2010年4月までのデータ 2009年度基準値は、年換算値



2-3. 東京営業所

東京営業所は所員6名で、当社における環境負荷に割合も極めて低いことから、身近な環境活動として、2010年2月から一般廃棄物とコピー紙の削減に取り組んでいます。

2-4. 滋賀工場

常勤者が不在につき、環境側面の管理は本社が担っています。



3. 環境活動の評価

3-1. 本社・工場

◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達 ×:未達

主な取組み計画 〔 〕内、今年度新たな取組み		達成状況		評価(結果と今後の取組み)		
二酸化炭素排出量削減	電力の削減 ・不要照明の消灯 ・空調設備の点検 ・デマンド監視システム運用 ・待機電力の削減 ・設備の空運転削減 ・クール/ウォームヒズ推進 [太陽光発電導入] [老朽化受変電・送電施設の更新] [工場照明の省エネ化] [省エネ家電・電気機器への更新]	○	基準値	325.0 ton-CO ₂	目標達成	
		○	目標値	311.8 ton-CO ₂	本社・工場の購入電力は、CO ₂ 全社排出量の50%、本社・工場排出量の85%を占めることから、削減の最重点項目と位置づけ多くの取組みを実施しています。今年度は、太陽光発電設備の設置、老朽化していた変電所の全面改築、工場内照明の約1/3を省エネタイプに変更するなど当社としては大規模な投資を行った結果、削減目標値を大幅に上回る成果がありました。次年度も身近な省エネと相まって、設備面でも効果のある適切な投資を計画的に実施します。	
		○	削減比	△4 %		
		○	実績値	283.9 ton-CO ₂		
		○	削減比	△13 %		
		○				
		◎				
		◎	-	-		
		◎				
		◎				
○						
2	自動車燃料の削減 ・エコドライブ運動展開 ・車両定期点検の実施 ・公共機関の利用促進 [低燃費車に更新2台] [E3・ハイオガソリンの給油促進]	○	基準値	29.9 ton-CO ₂	目標達成	
		○	目標値	28.7 ton-CO ₂	エコドライブの効果に関して世間で公表されているデータや取組みを積極的に紹介するなど社員の意識向上に努めています。またハイブリッド車や電気自動車の導入なども推進します。	
		○	削減比	△4 %		
		○	実績値	27.3 ton-CO ₂		
		○	削減比	△9 %		
		○				
△	-	-				
廃棄物排出量削減	1	一般廃棄物の削減とリサイクルの促進 ・分別回収促進 (シール掲示) [消耗品等適正保管・使用の励行] [機密文書の再生処理化] [事務用品・配布物等のグリーン化]	○	基準値	4,000 kg	目標達成
			○	目標値	3,920 kg	環境活動開始後、社員の削減意識が最も高まった取組みで、ゴミ箱の激減がその目に見える成果です。劇的な削減は難しいですが、今後も継続的改善に取組みます。
			○	削減比	△2 %	
			○	実績値	3,886	
			○	削減比	△2.9 %	
			○			
	○					
	2	コピー紙の使用量削減 ・再生紙利用の明示化 ・プロジェクターによるペーパーレス化 [スキャナー・PDFの有効利用] [伝票類の電子化と承認システムの構築]	○	基準値	5,257 kg	目標達成
			○	目標値	5,152 kg	紙媒体の会議資料がほぼなくなり、成果が出ています。コピーの要、不要を適切に判断して、今後もムダなコピーの排除に努めます。
			○	削減比	△2 %	
			○	実績値	4,997 kg	
			△	削減比	△4.9 %	
○						
○						
3	廃プラスチック ・分別回収によるリサイクル化促進 ・使い捨て製品の使用や購入を抑制 [溶接棒包装のリサイクル化] [業務外PETボトル廃棄禁止]	○	基準値	968 kg	目標達成	
		○	目標値	949 kg	購入品に付随するプラスチック容器などを購入先に引き取ってもらう活動に取り組み、リサイクル化が進みました。	
		△	削減比	△2 %		
		○	実績値	774		
		○	削減比	△20 %		
		○				
○						



◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達 ×:未達

主な取組み計画 〔 〕内、今年度新たな取組み		達成状況			評価(結果と今後の取組み)
廃棄物 排出量 削減	4 産業廃棄物の削減とリサイクルの促進 酸洗浄廃液の削減 ・適正使用の励行(過剰使用の抑制) ・酸洗浄廃液処理処理方法の改善 〔酸洗浄対象機器の仕様見直し〕 〔加工/製作方法、手順等の改善〕	×	基準値	70.7 ton	目標未達成 唯一未達成の項目です。多くの取組みをしましたが、高度な清浄度を要求される製品仕様の受注増が、削減努力を上回る結果となりました。今後は処理法の開発等にも取組み、削減に努力します。
			目標値	69.3 ton	
		○	削減比	△2 %	
		×	実績値	81.7 ton	
		×	増加比	+ 5.6 %	
	△	-	-		
節水	1 水道水・工業用水の削減 ・小まめな節水運動 ・給水設備の保守点検 ・節水コマの取り付け ・配管の定期監視 〔大量消費用途の改善〕 〔テスト用水の再利用化計画〕	○	基準値	12,540 m ³	目標達成 冬場に上水道配管からの漏れが発生しましたが、定常監視により早期に対応できるなど保守体制も整いつつあります。活動開始後毎年大幅な削減が続いており、本年度設定した目標値は厳しいとの判断をしていましたが、目標値を上回る削減を達成しました。今後も、着実に節水に取組みます。
		○	目標値	12,169 m ³	
		○	削減比	△3 %	
		×	実績値	9,336 m ³	
		○	削減比	△25.6 %	
		○	-	-	
	△	-	-		
化学物質 の管理	1 ・化学物質管理者会議の設置と運営 ・使用化学物質の把握・記録・管理 ・表示・識別の徹底 ・MSDS使用の徹底 ・パトロールの実施 ・排水等の測定・監視 〔漏えい事故時の対策・訓練実施〕 〔汚染防止のための作業改善〕 〔リスクアセスメントの実施を全社展開〕	○			目標達成 当社製品の原料として化学物質を使用することはありませんが、工場部門においては油脂分除去に有機溶剤を、技術・開発部門においては実験に化学薬品類を供することがあります。安全衛生活動と相まって、これら化学物質の管理に全社的に取組み、漏えい時の訓練等を通じて、対策を講じています。加えて今後も、リスクアセスメントを着実に実施し、化学物質に係るリスクの低減に努めます。
		○			
		○			
		○			
		○	-	-	
		○			
		○			
		○			
環境に 資する 製品	1 製品における環境配慮推進 〔『環境配慮スコアー表』作成〕 〔省エネ設計推進〕 〔発明考案表彰の省エネ設計推奨〕 〔環境機器の拡販〕	○			目標達成 設計時に行なった環境配慮を数値化する活動を展開しています。省エネ設計は元来行なってきたことですが、今後もより環境負荷の少ないあるいはリサイクルしやすい構成部品や機器の採用等の見える化に努めます。
		○			
		○	-	-	
		○			
		○			



3. 環境活動の評価

3-2. 南山田工場

◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達 ×:未達

主な取組み計画		達成状況			評価(結果と今後の取組み)
二酸化炭素排出量削減	1 電力の削減 ①不要照明の消灯 ②空調設備の適正温度設定 ③空調設備の日常整備	○	基準値	77.7 ton-CO ₂	目標達成
		○	目標値	69.9 ton-CO ₂	本項目に係わらず、前年度に比して生産量の大幅な減少が削減の大きな要因と推測しますが、小まめな消灯など環境意識が行動になって表れており、今後も地道に取組みます。
		○	削減比	△10 %	
		○	実績値	62.0 ton-CO ₂	
		削減比	△20 %		
	2 自動車燃料の削減 ・エコドライブ運動 ・アイドリングストップ ・急加速・急停車の防止 ・乗り合せ運動	○	基準値	6.31 ton-CO ₂	目標達成
		○	目標値	5.36 ton-CO ₂	環境活動を開始して、エコドライブを心掛けるようになってきた。今後は定期点検を確実に実施して、更なる削減に努めます。
		○	削減比	△15 %	
○		実績値	4.71 ton-CO ₂		
○	削減比	△25 %			
廃棄物排出量削減	1 一般廃棄物の削減とリサイクルの促進 ・分別回収促進(新分別・回収方法配布) ・分別による古紙リサイクル化促進 ・包装・梱包材(段ボール等)のリサイクル化促進	○	基準値	- kg	- 分別・リサイクル活動開始後、目視ではあるが廃棄物の顕著な減少が感じられる。社員の意識の高揚の賜物であり、今後も継続して取組みます。
		○	目標値	- kg	
		○	削減比	- %	
		○	実績値	1,148 kg	
	2 コピー紙の使用量削減 ・裏紙使用 ・ミスコピーの防止 ・プロジェクターによるペーパーレス化	○	基準値	301 kg	目標達成
		○	目標値	295 kg	環境活動開始以前から本項目には取組んでおり、その成果が出ている。使用量自体はそれほど多くはないが、象徴的な項目であるので継続して取組みます
		○	削減比	△2 %	
		○	実績値	230 kg	
△	削減比	△23 %			
節水	1 水道水・工業用水の削減 ・節水運動 ・給水設備の保守点検 ・節水コマの取り付け ・配管の定期監視継続	○	基準値	1,500 m ³	目標達成
		○	目標値	1,350 m ³	節水シールを掲示することにより、節水意識が高まってきており、今後も重点項目として節水に取組みます。
		○	削減比	△10 %	
		×	実績値	792 m ³	
○	削減比	△48 %			

3-3. 東京営業所

所員6名の小さな所帯ですが、全サイトにおける環境活動の展開方針に基づき、廃棄物とコピー紙の削減を活動項目に設定して、所員全員で取組んでいます。

3-3. 滋賀工場

常勤者が不在につき、本社・工場の環境管理責任者が、環境側面での施設管理やスポット的に使用する際の環境管理や活動について、社員に教育、指導を行なっています。



4. 活動事例 トピックス

二酸化炭素排出量の削減

電力の削減

太陽光発電設置を設置

本社工場は、太陽光発電設置を設置しました。本館入口に、電光パネルを設置し、社員はもちろんのこと、来客いただいたお客様、取引関係者の皆さんへの環境に対する意識の向上にも一役かっています。



変電施設を改修

老朽化した変電施設を改修してトップランナー機器を導入しました。



省エネ型照明器具の導入

工場水銀灯を省エネ製品へ更新しました。工場の水銀灯を省エネ照明に更新するなど、空調機、設備機械類の省エネ、新エネ設備等の導入を進めています。



昨年度導入したデマンド監視システムの運用により、使用中及び予想電力量をリアルタイムで把握できるようになりました。一方、地道な活動ですが、クールビズやウォームビズ、小まめな消灯や待機電力削減運動にも全社員が取り組んでいます。

窓際にはニガウリなどのツル植物による緑のカーテンを施し、エアコンの使用を削減しています。また畑でサツマイモを栽培し、蒸発散面を確保して潜熱輸送により温度を低減しています。





自動車燃料(ガソリン・軽油)使用量の削減

全部門で引続きエコドライブ運動に取り組んでいます。今年度からは、安全も考慮し、運転日誌の記入を始めました。

ハイブリッドカー導入

今年度の大きなトピックスの一つとして、営業車にハイブリッドカーを導入しました。



E3燃料

大阪府のE3燃料(廃木材から生産したバイオエタノールを3%添加したガソリン)実証事業における協力車両として当社の車両6台を登録し、実際に給油を始めました。原料は異なりますが、当社は北海道でバイオエタノールプラント建設に参画しており、バイオエタノール添加ガソリンの普及にも取り組んでいます。



一般廃棄物の削減とリサイクル促進

一般ごみ・紙の使用量の削減

紙の使用量削減の一環として、業務におけるペーパーレス化を推進しています。今年度もさらに会議室にプロジェクターを常設する工事を施工し、会議での紙資料配布を削減しました。



環境教育と啓蒙活動の推進

環境啓蒙活動として、引続き毎月発行する社内報に「エコアクション21」のコーナー設け、環境事務局員が分担して環境関連記事を投稿しました。



大阪府のエコランナー活動へ参加しました

大阪府地球環境課殿の進めておられる環境の取組みに参加しました。この取組みは、民生部門における環境配慮の取り組みのきっかけづくりとして、毎月1団体を選んでランナーに見立て、「エコ・ランナー」として毎月のテーマに関連した取り組みを実施してもらい、次の団体にリレー形式でつなぐことによって、取り組みの輪をを広げる。と言うものです。

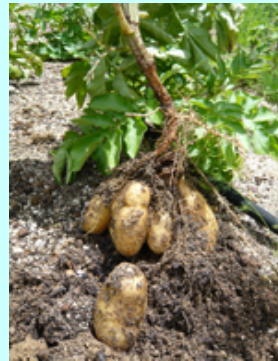




構内緑化/生物多様性の保全

自然との調和のために構内緑化活動として、材料保管場を花壇と畑に転換・整備、構内緑地が約200㎡増加し、花・野菜・芝生の植え付けに多くの社内ボランティアの参加・支援を受けました。

取れた野菜は、食堂で昼食の1品となり、『旬』を感じることができました。また一人暮らしの社員の野菜不足解消にも貢献しました。



花壇と畑には、可愛い小鳥や、珍しい蝶々も訪れるようになりました。



社会貢献活動

社内ボランティアを募り、昨年に続き2度目の地域社会奉仕活動(クリーン大阪)に参加しました。若手を主体に多くの部門からの参加者を得ました。加えて、可愛い子供さんや飛び入り参加などもあり、大変楽しく有意義なひと時を過ごすことができました。その後、社内に作った畑で栽培したサツマイモやジャガイモを、社員と社員の子供達と収穫しました。当社環境活動の大きな成果の一つです。





環境に有害な化学物質管理の推進

化学物質の管理状況及び問題点の把握、改善策の策定等を目的として、化学物質管理チームを編成しました。四半期毎に定例会議を開催するとともに、化学物質管理パトロールを行い、問題点の指摘や指摘事項のフォローアップなど改善に努めました。「要改善」の指摘を受けた事項の対策の中に、当社改善提案制度の表彰を受けた事例もあります。



緊急事態 全社避難訓練の実施 火災訓練

毎年、淀川消防署殿立会いの下、火災訓練を行っています。今年度も全社員一斉避難訓練、新入社員による消火器訓練、消火ポンプによる放水訓練、そして、社内に設置しているAEDでの心肺蘇生を含む救急救命訓練を行いました。



化学物質漏洩訓練とその対策

今年度初の試みとして、化学物質の漏洩の影響や、その防止対策の検討のために、訓練を行いました。



今後も、当社安全衛生委員会、危機管理チームと協同して、リスク対策に鋭意取り組んでいきます。



5. 代表者の見直し

年度末に、社長に「代表者の見直し」として、環境管理責任者から【表-5】の各情報をインプットし、同表に記載するアウトプットがありました。

アウトプットのあった各事項は、2010年度活動に反映しています。

【表-5】代表者の見直し

インプット情報		
インプット事項	概要	管理責任者の提案等
システム運用に係る評価	環境活動取組み自己チェックの推移 08年4月:229/528(43%) 10年4月:329/542(61%) に改善する等 システムは適切かつ有効に運用されている。	1. 環境方針 2009年版ガイドライン対応のため環境方針に以下を追記 ①グリーン購入の推進 ②化学物質使用量の削減
環境目標・計画の達成状況 環境関連法規等の順守状況 是正及び予防処置の状況	本レポート該当項目記載どおり 本レポート該当項目記載どおり 期中目標未達項目3件について、是正処置要求書を発行した ①一般廃棄物削減(以降挽回) ②コピー紙削減(以降挽回) ③酸洗浄廃液削減(未達)	2. 環境目標・計画 特に、目標値達成項目については、基準年度または削減目標値を見直す。 3. システムの各要素
内部監査の結果	CSR推進が実施する内部監査と同時に実施。 活動の定着化をテーマに各部門を監査の結果、概ね良好な状態であることを確認した。	1) 本年より全サイトにおいてシステム運用を開始したことから、本年更新審査に拡大認証を申請する。 2) 環境事務局と品質事務局を統合し、MS事務局とする。
周囲の変化の状況	・エコアクション21ガイドライン2009年版移行対応 ・安全衛生法に係る化学物質管理の厳格化対応	



代表者のアウトプット

1. 環境方針
環境方針を改訂し、環境管理責任者提案の2項目を加えること
2. 環境目標・活動計画
活動実績に基づき、目標設定、計画は適切に見直すこと
3. システムの各要素
 - 1) 次回更新審査は、全サイトが受審すること
 - 2) エコアクション21 ガイドライン2009年版にてシステムを構築、運用、維持すること

6. 環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

※東京営業所は全て該当せず

適用される法規制	適用される施設、毎年必要な報告等	本社・工場	南山田工場	滋賀工場
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物、産業廃棄物管理票交付等状況報告書	○	○	○
騒音・振動規制法	ペンディングマシン、空気圧縮機、送風機、機械プレス等	○	○	該当せず
消防法	少量危険物取扱所、屋内貯蔵所	○	○	該当せず
下水道法	酸による表面処理施設	○	○	該当せず
高圧ガス保安法	液化窒素貯槽、高圧ガス容器貯蔵所	○	○	該当せず
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則、粉じん障害防止規則に係る作業	○	○	該当せず
電気事業法	自家用電気工作物	○	○	○
PCB特別措置法	PCB含有コンデンサ(微量含有は環廃産発第040217005号による)	微量○	該当せず	○
浄化槽法	浄化槽	該当せず	○	○

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。